

# 八幡製鉄労働会館建設とNAU設計委員会 新日本建築家集団（NAU）の設計活動について

A Case Study on the Design of the Yawata Steel Corporation Labor Union Hall.  
Design Activity of the New Architect's Union of Japan (NAU)

船 曳 悦 子  
Etsuko FUNABIKI

## Abstract

The New Architect's Union of Japan (NAU) was organized on June 28, 1947. At first, the activities of NAU were carried out by individual architects and architectural offices those were member of NAU design planning committee. The buildings which NAU designed were All-Japan Shipbuilding Workers Labor Union, New Japanese Literature Hall and The Federation of Bank Employees Labor Unions. When NAU took charge of the design for the Yawata Steel Corporation Labor Union Hall NAU was reorganized into a design committee. As such, during the Yawata Steel Corporation Labor Union Hall, the design committee aimed for a joint design organization. NAU, active in design projects in the post-war period in Japan, developed along principles of democratic thought.

Key words : 池辺陽、今泉善一、海老原一郎

## はじめに

新日本建築家集団：New Architect's Union of Japan (NAU、以下の記述ではこれを使用)は「日本建築文化連盟」と「日本民主建築会」を中心に1947年6月28日に結成された、戦後初期における建築運動団体の一つで<sup>1)</sup>、その活動は組織形態を変えながら今日に至る。しかし、全国組織の存続という観点からすれば、NAUの全盛期は結成の1947年から51年にかけてであるといつてよからう。この間、NAUは「建築を人民のために建設し人民の建築文化を創造する」<sup>2)</sup>をスローガンに設計活動を

展開し、「全日本造船労働組合会館」(1949年)「新日本文学会館」(1950年)「全銀連会館」(1950年)「八幡製鉄労働会館」(1952年)などが建設された<sup>3)</sup>(図1～4)。しかし、こうした設計活動の実態については知られていない。そこで本稿では「八幡製鉄労働会館」に注目し、その設計体制を明らかにしたい。

## 1. 八幡製鉄労働組合の労働会館建設計画

官営八幡製鉄所を前身とする日本製鉄は、1950年4月過度経済力集中排除法に基づき解体され、八幡製鉄所、他3社が発足した<sup>4)</sup>。八幡製鉄労働会館(労働会館、以下の記述ではこれを使用)の建設計画は、日本製鉄労組時代1949年2月26日第9回臨時代議員大会において緒方孝男委員長をはじめとする執行部から提出された「建設趣意書」にはじまる。そこには、会館建設の必要性について以下のように記述されている<sup>5)</sup>。「労働組合と労働会館、それはわれわれ労働者にとっての安住の家であり、闘争の城砦であり、策を練り議をこらす参謀本部であります。また白熱の討議に階級意識の火花を散らす『自由の殿堂』とし



図1 全日本造船労働組合  
会館  
出典：『新建築』第24巻第10号、  
1949年10月号



図2 全銀連会館  
(撮影：船曳悦子2002年2月)



図3 新日本文学会館  
出典：『建築文化』第38巻、  
1950年1月号



図4 八幡製鉄労働会館  
出典：『八幡製鉄労働運動史上巻』八  
幡製鉄労働組合、1957年  
(1982年新労働会館建設に伴い取り壊  
され、現在は駐車場となっている。

て、全く不可欠なものであります。われわれが労働者として知性と教養を身につけるためにも、また文化的な諸々の催物等の会場としても、無くてはならないものであります。」

しかし、この時には労働会館建設に異論が多く決定に至らず、第二次緒方執行部となった第13回臨時大会（1950年6月25日）において、次のような概要が決定した<sup>6)</sup>。総工費2,500万円。延坪600坪、鉄筋コンクリート2階建。大会議室（1,500名収容）、中会議室（350名収容）、小会議室5室、執行委員室、各専門部部屋約10室、その他図書館、応接室、宿泊室、宿直室、浴場、食堂、理髪室、娯楽室、厚生部室、炊事室、管理人室、売店。竣工予定1951年3月末。しかしながら、当初計画は年を追うごとに肥大化し、予算においては2,500万円から8,200万円へ、延べ坪においては600坪から837坪へ、規模においては地上2階建から地下1階・地上4階へ上方修正された。大幅な予算修正については内部問題となり疑惑が残る結果となった<sup>7)</sup>。

戦後初期の材料不足の日本において、このような大規模な鉄筋コンクリート造の建物が建設された背景には、次の点が指摘される<sup>8)</sup>。戦後の特需景気の影響下で八幡製鉄所の生産状況が右肩上がりであったこと。そうした大企業の有力な労働組合の事業であったこと。建設に際し八幡製鉄所から鋼鉄の無償提供があったらしいこと。

## 2．八幡製鉄労働会館建設計画とNAU設計委員会の設立

NAUは、総会、中央委員会、幹事会、事務局（編集、調査、研究、財政、組織、事業）を本部として、東京を中心に活動を展開する一方、地方に支部を設置した。そのほかに必要に応じて、班、部会、専門委員会を設置し、日常生活に密着した活動展開を目指した（図5）。この専門委員会のひとつに設計計画委員会があった。同委員会が関与した建物を見ると、「全日本造船労働組合会館」は、「設計NAU設計計画委員会所属、東京建築事務所／担当者企画平松義彦、設計今泉善一、現場道明栄次・古坂嘉雄」<sup>9)</sup>となっている。「新日本文学会館」は「設計NAU設計計画委員会所属東京建築事務所」<sup>10)</sup>、「全銀連会館」は「設計及び監理信建築設計事務所／設計山本勝巳・海老原一郎」<sup>11)</sup>である。このように設計計画委員会における設計活動の

実態は、委員会所属の個々の事務局が担っていたというものであった。

1950年6月28日、NAUに労働会館の設計依頼の打診があった。これを受けて事務局は設計計画委員会の会員を招集し、基本設計を要請した。その1ヵ月後の7月28日、正式依頼状が届いた。それによると労働会館は「36,000人の組合員のための約700坪の鉄筋コンクリート造」というものであった。1950年8月8日、設計計画委員会所属の池辺陽、今泉善一、海老原一郎が八幡製鉄労働組合に赴き、労働会館建設委員会と協議し、NAUの設計監理担当が確定となった<sup>12)</sup>。そこで1950年8月31日、NAUに依頼された建築設計監理業務を、NAUの研究、組織、宣伝、財政等の活動と連動させ、民主的な方法によって処理するための「新日本建築家集団設計委員会規則」<sup>13)</sup>を立案し、「設計計画委員会」を改組して「設計委員会」を設置した。

メンバーは、市来崎一雄委員長を中心に、常任委員に図師嘉彦、高橋寿男、委員に綾井九州彦、池辺陽、今泉善一、海老原一郎、郡菊夫、津田文雄、中村登一、野口巖、平松義彦、専門委員に矢代秀雄、山本学治であった<sup>14)</sup>。

このように共同設計の体制がNAUの内部に組み込まれた要因は、労働会館の設計依頼が会員個人ではなく事務局にもたらされたこと、要求建物が700坪とこれまでになく大規模であり構造も鉄筋コンクリート造であったことが考えられる。したがって、NAUにおける共同設計体制は労働会館設計依頼を契機として生まれた可能性が高い。

## 3．八幡製鉄労働会館の設計体制

労働会館の設計者は、下記の合計15人である。「設計監理 新日本建築家集団設計委員会／設計監理担当 池辺陽・今泉善一・海老原一郎／製図担当 吉中道夫・古坂嘉雄・北川允昭・盛安文象／構造担当 坪井善勝・森央二・八代秀雄／設備担当 綾井九州雄／現場担当 越智富五郎・古坂嘉雄・関野昇三／資材担当 小野三吾」<sup>15)</sup>。この設計組織に関して今泉は「吾々はこの八幡製鉄労働組合会館の設計に当り、強く念願した事は、共同設計の理想と方法論を確立することであった」<sup>16)</sup>と述べており、共同設計が目指されていたと思われる。

当時製図担当者であった北川允昭によると、設計チームは池辺、今泉、海老原がそれぞれのスタッフである北川、古坂、道中を伴って設計されたものであり、なかでも中心は池辺であったという<sup>17)</sup>。労働会館の基本設計第2次案（後述）原案は池辺のものという<sup>18)</sup>。このように池辺が中心となったことの要因としては次のことが推測できる。1）池辺は設計委員会に所属しながらも、前出の建物の設計及び建設に関与していなかった<sup>19)</sup>。2）NAUの組織の中で池辺は、編集部<sup>20)</sup>、建築教育専門委員<sup>21)</sup>、執筆活動専門委員の責任者<sup>22)</sup>、第二回総会（1948年7月10日）における綱領起草者、新役員体制における編集部長<sup>23)</sup>、

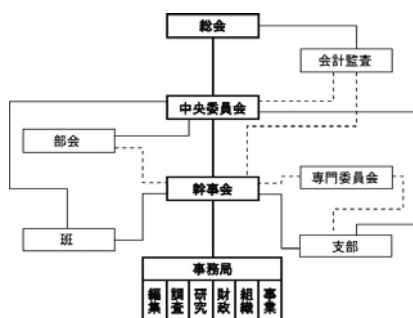


図5 NAU組織図  
出典：NAU『規約』1949年6月

## 八幡製鉄労働会館建設と NAU 設計委員会

表 1 八幡製鉄労働会館建設における八幡製鉄労働会館と新日本建築家集団の動き (典拠は本文末尾に一括掲載)

年	月	日	事柄	典拠※
1945	11	13	■日本製鉄労働組合(後の八幡製鉄労働組合)結成	①p. 120
1946	2	11	■最初の組合本部として旧日鉄看護婦要請所(木造瓦葺平屋1棟 約60坪)を間借りする。	②p. 1687
1947	8		■組合本部を旧港運会社事務所(木造瓦葺2階建1棟 約150坪)に移転。	②p. 1687
			■年次大会を開くための大会会場、約1000人収容可能な屋外施設の借用に苦心する。われわれの力でなんとか集会場を作らなければ、(中略)このような状況から労働会館建設の意向は強くなる。	②p. 1688
1948	12		■緒方執行部発足(～49年11月)	②p. 583
1949	2	20	○設計委員会:われわれの研究活動が労働組合その他民主団体と結びつかねばならぬ。	③
	2	26	■第9回臨時時代議員大会にて緒方執行部は「八幡製鉄労働会館建設趣意書」を提出し、労働会館を建設すべしとした。しかしながら、労働会館建設に異論が多く決定に至らず、次の機会に諮ることにし、調査のみを進めることになる。	②pp. 631-633, 1688-89
			■緒方執行部は、労働会館建設準備委員会を構成。	②p. 794
	10	23	■第11回臨時時代議員大会において労働会館用地として約847坪を購入することを決議し、ここに初めて労働会館建設の最初の意志を明らかにし、これを実行に移した。	②p. 1689
1950	11		■内原執行部発足(～50年4月)	②
	4		■第2次緒方執行部発足(～50年10月)	②
	6	25	■第13回臨時時代議員大会(第2次緒方執行部)は「労働会館建設計画(案)」を承認した。「総工費2500万円延坪600坪、鉄筋コンクリート2階建、1500名収容の大会議室、執行委員室、小会議室、事務室及び附属室一切、資金は組合員33000名が1ヵ月20円を40ヶ月掛けることにする」、1951年3月末日を建設計画完了目標とした。	②p. 1689 pp. 1067-68, 1272-73
	6	28	○八幡製鉄労働組合長緒方孝男氏より新日本建築家集団宛に、労働組合会館の基本設計図作成の依頼が来る。	④p. 50
	7	13	■労働会館建設に対し県知事、市長宛に要請状を発しその協力を求めた。	②p. 1689
		28	○36,000人の組合員のための約700坪の鉄筋コンクリート造の組合会館の基本設計を8月中旬までに送ってほしいとの依頼状がNAU高山英華委員長宛に事務局に届く。	⑤
			○NAUの事務局は設計計画委員会の会員を招集して基本設計図の担当を依頼する	⑤
	8	8	○設計計画委員会の3人の代表(池辺陽、今泉善一、海老原一郎)が八幡に主張し、組合の人たちと協議した結果、設計監理がNAUに依頼されることがほぼ確実となり、改めて依頼された修正基本設計図を9月10日までに送付することで合意する。	⑥
		31	○NAUに依頼された建築設計監理業務を、NAUの研究、組織、宣伝、財政等の活動と結合して、民主的方法によって処理するため、「新日本建築家集団委員会規則」を立案し、NAU設計委員会を設置。	⑦
	9	7	○設計委員会は第1回設計委員会において、八幡の設計スタッフ池辺陽、今泉善一、海老原一郎に決定。池辺、今泉両氏に3度目の八幡出張を依頼。	⑥
		18	○基本設計図第1次案を組合に提出。建設予定地の調査を行い計画変更が合理的であるとの判断から、組合に第2案提出の許可を得る。	④p. 50
		28	■NAUの2案以外に11業者14案の基本設計図の提出があり組合の設計委員会において検討された。	⑥
			○中央委員会は正式にNAUの第2次案を採用することに決定し、実施設計の打ち合わせのため今すぐに来いとの電報が事務局に届く。	⑥
	10		■内原執行部発足(～51年4月)	②
		下	○実施設計に着手	⑤p. 51
	12		○実施設計完了。	⑧
		24	■第14回臨時時代議員大会(第二内原執行部)は労働組合の建設延坪面積の増大、朝鮮戦争勃発による物価高騰を原因として追加予算を組まざるおえなくなる。総工費48,347,030円。労働会館建設第二予算問題となる。	②p. 1272 pp. 1690-92
1951	1	24	■機関紙熱風第108号に新日本建築家集団設計委員会の設計図が正式に採用されたことが掲載される。	②p. 1692
	2	9	■中央委員会で入札業者11社が決定。大林組、大成建設、清水組、三宅組、鹿島建設、西田組、奥村組、木村組、竹中工務店、小田組、日産土木。	②p. 1693
		16	■関係業者に対して現場説明会を実施。完成期日10月末日、質問受付3月1日、入札3月5日。	②p. 1693
		5	■入札の結果、最高額4,360万円、最低額2472万円で予定金額を僅かに上回った。入札価格の低廉な大成建設、西田組、三宅組との交渉の結果、最低価格、工事能力、経営状態の良好な2,267万円の西田組に落札をみた。	②p. 1693
	3	17	■西田組と工事契約をする。	②p. 1693
		25	■地鎮祭、起工式を行う。	⑨
		29	■西田組と契約書を取り交わし、工事に着手。	②p. 1693
	4		■西口執行部発足(～52年4月)	②
	6	17	■第15回定例時代議員大会において労働組合会館建設経過報告書と5月31日現在の決算中間報告がなされる。	②p. 1492
	2	17	■第16回臨時時代議員大会において最終予算案が通過する。	②p. 1697
1952	2	25	■八幡製鉄労働組合会館竣工、組合本部を移す。	②p. 1697
	3	1	■八幡製鉄労働会館落成式	⑩

■八幡製鉄労働組合(労働会館建設委員会)の動き ○新日本建築家集団(NAU)の動き

第三回総会（1949年6月5日）における中央委員<sup>24)</sup>、『建築新聞』、『NAUM』などの出版責任者など重要な役職に就いていた。3) 労働会館設計に先立つ1949年、日本製鉄八幡製鉄所（1950年以降は八幡製鉄所）健康組合保健会館の設計顧問をしていた<sup>25)</sup>。

#### 4. 八幡製鉄労働会館の設計案

労働会館建設委員会は<sup>26)</sup>、全11業者に基本設計図を依頼し、遅くとも1950年9月28日までに設計図の提出を求めている（表1）。しかしながら、すでに見たようにNAUへの設計依頼は1950年8月8日の時点で確実となっていた。すなわち、建設委員会は応募案の締切りを待たずに、NAUに設計依頼したことになる。このことから労働会館の設計依頼は、あらかじめNAUに決定していた可能性が高い。

NAUの設計委員会が提出した基本設計図は次の2案であった。

##### 基本設計図第1次案（図6）

第1次案は、建設予定地である三角形の平坦地約600坪に、3つの建物を組み合わせるといもので、1階に東向きの玄関ホールがある3階建、地階に食堂等の厚生施設、1階に組合事務局、2階には1200人収容が可能な大会議場がある円形の建物、小会議室6室、宿泊室4室からなる2階建である<sup>27)</sup>。

ところが、第1次案提出時に組合の案内で現地視察の結果、敷地は高低差3.7mの傾斜地であることが明らかになった<sup>28)</sup>。設計委員会は、第1次案作成に先立って敷地を実見していなかったのかもしれない。設計委員会は計画を変更することとし、組合の承認を経て第2次案を作成することになった。

##### 基本設計図第2次案（図7）

労働会館は、2～4階を一体にした大会議場を中心にして、北側に会議室、事務室、南側に厚生施設、宿泊施設を配してい

る<sup>29)</sup>（図8）。こうした配置がなされた要因として次の3点があげられる<sup>30)</sup>。第一は、演説、ページェントがおこなえる広場を確保するため。第二は、この会館に組合員にとってのシンボル性を附与するため。第三に、敷地の有効利用を考えてその形状に沿った平面形としたため。その結果、同会館は演説台としても機能するテラスや非常階段を備えて、広場に対してシンボリックな左右対称ファサードを向けるものとなっている。第2次案は、1950年9月28日に他業者案とともに検討に伏され、採用が決定した<sup>31)</sup>。

#### 5. 八幡製鉄労働会館の位置付け

ここでは八幡製鉄労働組合が毎月3のつく日に発行していた組合新聞『熱風』から、組合活動における労働会館の位置付けについて概観する。

1952年2月17日、コンクリートの枠取り作業も完了していない労働会館で初めての臨時大会が行われた<sup>32)</sup>。そして3月1日の落成式から10日間労働会館記念文化祭が行われ、文化サークル協議会所属の演芸、奇術、音楽、尺八、コーラス、総合展覧会、俳句、川柳、短歌会などの発表、養鶏展示会など多彩な行事が催された<sup>33)</sup>。サークル活動は、労働者階級の文化活動、とくに労働組合における労働者の文化活動の基本的な形であった<sup>34)</sup>。八幡製鉄労働組合の文化サークル協議会は1952年夏、組合からの要請によりサークル活動がはじまった<sup>35)</sup>。

労働会館は、組合の最高議決機関である大会、中央委員会及び執行委員会など、組合運営に関する議決の場として使用される一方、組合員の文化活動の場として、サークル活動や慰安会や映画や演劇など、組合員の憩いの場として利用されていた（表2）。このように労働会館は、組合員の団結の場として使用されるとともに、組合員の文化活動の拠点でもあったといえる。（図9）



図6 基本設計図第1次案  
鳥瞰図

出典：『建築雑誌』第67巻第791号、  
1952年10月



図7 基本設計図第2次案  
鳥瞰図

出典：『建築雑誌』第67巻第791号、  
1952年10月

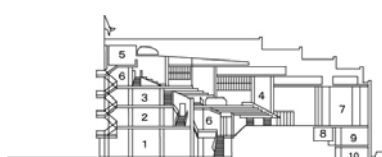


図8 八幡製鉄労働  
会館（断面図）

出典：『NAU news』27、  
1951年1月1日、所蔵先複  
写不可のため筆者作成

1事務室 2執行委員室 3図書館 4大会議室 5映写室  
6非常階段 7舞台 8オーケストラピット 9厨房 10クラブ室



図9 ストライキの様子

出典：『熱風』第342号、  
1957年11月13日第1面

八幡製鉄労働会館建設と NAU 設計委員会

表 2 八幡製鉄労働会館の利用状況

日	1956年4月	1956年5月	1956年6月	1956年9月	1956年11月	1957年1月	1957年2月	1957年3月
1	乱菊物語 帰ってきた幽霊	組合宣伝部主催 メーデー 映画・ 人生ととんぼ返り					背番号16 万才学校大会	
2				幸福は何処に お嬢さんさん登場	第二製鋼課慰安会	花頭巾午前大会 男花道	おしゃべり社長 霧の音	
3			山本工作所慰安会		隣の花嫁 弥次喜 多道中		おしゃべり社長 “緑人”なる大会	
4	義仲をめぐる三人 の女 青い芽		俳優座公演		中央委員会（夜） 東部路線慰安会			
5			中央合唱団公演	春のみづうみ 子供の目	第二化成課慰安会	牛乳屋フランキー 月形半平太	若の花物語 うえ る魂	浮草の宿 あゝ軍艦旗 泣き笑ひ五十両
6			教習所同窓会		鉄道課慰安会			
7		RKB公開録音	前田第一区映画鑑 賞会	月の安道館 四人の誓い	厚板課慰安会	日本橋 月形半平 太	子宝仁義	
8	琴の大会	虹いくたび いろは唄子	中央委員会					
9	女房族は訴える 花嫁のため息			旅がらすでござん す 東京の人よさ ようなら 幽霊タ クシー	第二コークス慰安 会	サザエさん 花笠太鼓		音楽会
10		ウッカリ夫人と			第一ストリップ慰 電氣課慰安会		新制作座公演	水道支部慰安会
11	柔道開眼	チャッカリ夫人第 三部			第二ストリップ課 慰安会	愛の海峽 乳母車	歌う不夜城君を愛 す	極楽島物語 リンゴの村から 母白書
12	愛愁と銃弾	大江戸出世双六		美貌の園 流れの花				
13	豹の? 宇宙人東 京に現わる	チェミの婦人靴 君美しく	花火 婚約三羽鳥	白い橋 あなたも私もお年 頃	芸術舞踊合同公演 中央委員会 (昼)・映画 (夜) 白い魔魚 裸足の青春	若いお巡りさん 花嫁募集中	人間魚雷出撃す “朱と緑”大会	嵐の中の男 黒姫 秘帖
14	組合大会	浪曲、華井新・華 井新十郎一行					踊る太陽 蜘蛛巣城	炉材課協同会慰安 会
15								
16	くちづけ	姿なき一〇八部隊		赤信号 大暴れチャッチャ 娘	映画(昼) 白い魔 魚 裸足の青春			最後の空撃 吼し
17	こころ	怒涛の男	早春 シャボン玉親爺	歌謡曲 鈴木三重 子 白根一男	猫と庄造と二人の 女 夜の河		あばれ鳶 蜘蛛巣城	マリヤ観音 銀河の都
18	奥様は大学生 まらそん侍	組合臨時大会		魔の花嫁衣裳大会 続この世の花6・ 7部		嫁取り試験 親馬鹿天国 ラドン		
19		黒帯三国志 秘伝月影抄						民芸公演
20	吉野の盗賊 青竜の洞窟	幸福はあの星の下 に 鬼の居ぬ間 に	浅太郎鳩 続第二等兵物語		中央委員会 (昼)・映画 (夜) 猫と庄造 と二人の女 夜の 河		哀愁の園 京洛五人男	
21		勅条課慰安会		怪猫五十三次 たぬき	製鋼部慰安会 嵐 逢ひぞめ笠			第一製鉄課慰安会
22		市民合唱団第二回 定期演奏会	銀心中 愛の歴史	二分塊慰安会		飢へる魂午前大会 第二等兵物語	音楽会（労音）	音楽会（労音）
23		夫婦善哉		花の運河 はりきり社長		続第二等兵物語 眠狂四郎無頼控		
24		浮雲	白井権八 駄々ツ子社長	文楽公演	第一動力部慰安会	製鉄部慰安会	忘却の花びら 静と義経	電気設備課慰安会
25	教育委員会講演会	県教職組合大会		検定課慰安会	女囚と共に 最後の戦闘機			大条課慰安会
26	商工会議所春祭り		新制作座公演		小条課慰安会			四製鋼慰安会
27	映画と講演のタベ	国鉄婦人部雑誌の 会	刑事部屋 赤ちゃん特急					東京よいとこ
28	続へそくり社長 死美人風呂	労音・音楽会		労音・音楽会	俳優座公演			鶴八鶴次郎
29	慰安会（炉材課）	中央委員会予定	棲の心 忍術武者修行	滝の白糸 地獄の札束	新協劇団公演	背番号16 のんき侍大あばれ	伊丹秀子引退公演	忘れえぬ暮情
30	八幡地協主催メー デー前夜祭 映画 “月の傘”と演芸	浅草の灯 高校卒業前後		製鉄病院慰安会	夏の嵐 力道山の男魂			復興は誰がやる
31								

※この表は法政大学大原社会問題研究所所蔵の『熱風』をもとに作成したものである。1949年―57年まで閲覧した結果、「労館だより」とし掲載されている八幡製鉄労働会館の主な使用状況のうち、1ヶ月間の使用状況がそろっているものを表にまとめた。

出典：

1956年4月―『熱風』第287号、1956年3月23日、第2面／『熱風』第288号、1956年4月3日、第2面／『熱風』第289号、1956年4月13日、第2面／『熱風』第290号、1956年5月―『熱風』第290号、1956年4月23日、第4面／『熱風』第291号、1956年5月3日、第2面／『熱風』第292号、1956年5月13日、第2面／『熱風』第293号、1956年6月―『熱風』第294号、1956年6月3日、第2面／『熱風』第295号、1956年6月13日、第2面／『熱風』第296号、1956年6月23日、第2面  
1956年9月―『熱風』第302号、1956年9月3日、第2面／『熱風』第303号、1956年9月13日、第2面／『熱風』第304号、1956年9月23日、第2面  
1956年11月―『熱風』第308号、1956年11月3日、第2面／『熱風』第310号、1956年11月23日、第2面／『熱風』第312号、1956年12月13日、第2面  
1957年1月―『熱風』第314号、1957年1月23日、第2面／『熱風』第315号、1957年2月3日、第2面  
1957年2月―『熱風』第315号、1957年2月23日、第2面／『熱風』第316号、1957年2月23日、第2面  
1957年3月―『熱風』第317号、1957年3月3日、第2面／『熱風』第318号、1957年3月13日、第2面／『熱風』第319号、1957年3月23日、第2面

おわりに

NAU は、組織の内部に設計業務を担う部門を持っていた。発足当初、それは建築家個人あるいは設計事務所を主体としたものだった。しかし、やがてそれは共同設計体制を目指すものに变化した。その契機となったのが、八幡製鉄労働会館であった。この会館は労働者のための施設であり、同時に1950年代初頭においては比較的大規模な鉄筋コンクリート造であった。NAU において共同設計は、設計業務を NAU の他の活動と連動させた、民主的な設計活動の方法ととらえられていたと考える。

八幡製鉄労働会館は、戦後八幡製鉄労働組合委員の団結のシンボルとしての役割を担った建物であった。

謝辞

本稿の作成にあたり、次の方々に貴重なご教示を賜った。田巻辰也氏（新日鐵八幡労働組合）、北川允昭氏、池辺昌子氏、松井昭光氏（新建築家集団）、また NPO 法人西山卯三記念すまい・まちづくり文庫、法政大学大原社会問題研究所に資料調査に際してご支援を賜った。記して謝意を表します。

## 注

- 1) 藤井正一郎・山口廣「新日本建築家集団 (NAU)」『日本建築宣言文集』彰国社、1974年。松井昭光 (監修)・本多昭一 (著)「新日本建築家集団 (NAU) の結成から本部活動停止まで」『近代日本建築運動史』ドメス出版、2003年。
- 2) 「新日本建築家集団綱領」第2回総会 (1948年7月10日) 起草者池辺陽。
- 3) 浜口隆一「現代建築史」『新訂建築学大系 6 近代建築史』彰国社、1963年。大川三雄「NAU と戦後の建築運動 (1945 ~ 60)」『現代建築の軌跡』新建築社、1995年。
- 4) 「年表」『戦後鉄鋼史』日本鉄鋼連盟、1959年1月、p. 84。
- 5) 『八幡製鉄労働組合運動史中巻』八幡製鉄労働組合、1959年、pp. 631-33。
- 6) 同前、「労働会館建設計画」pp. 1067-69。
- 7) 注5に同じ、pp. 1690-91。
- 8) 北川允昭氏の筆者への談話 (2003年8月20日、横浜) による。
- 9) 「全日本造船労働組合会館」『NAUM 社会と建築と建築家 NO. 2』新日本建築家集団編、1949年。
- 10) 「新日本文学会会館」『新建築』第25巻1号、1950年1月号。
- 11) 「全銀連会館」『建築文化』第38号、1950年10月号。
- 12) 「八幡労働会館設計 NAU 案に決まる」『NAU news25』1950年11月1日。
- 13) 「新日本建築家集団設計委員会規則」『NAU news25』1950年11月1日。
- 14) 注12に同じ。
- 15) 「八幡製鉄労働組合会館の設計と施工に就いて」『建築雑誌』第67巻第791号、1952年10月、p. 52。
- 16) 同前。
- 17) 注8に同じ。
- 18) 同前。
- 19) 注8に同じ。
- 20) 「常任委員氏名」『建築ニュース』第1号、1947年8月12日。
- 21) 「専門委員会を作るには」『建築ニュース』第1号、1947年8月12日。
- 22) 同前。
- 23) 「新建活動方針、池辺草案をつくる」『建築ニュース』第6号、1948年4月5日。
- 24) 「新役員決まる」『NAU news17』1949年6月20日。
- 25) 「保健館 日本製鉄八幡健康組合」『建築文化』第29号、1949年4月。
- 26) 労働会館建設委員会とは、労働会館建設のため八幡製鉄労働組合側の窓口であったと考えられる。しかしながら、建築の知識を持ち合わせていたかについては不明である。
- 27) 注15に同じ。
- 28) 同前。
- 29) 池辺陽「八幡製鉄労働組合会館」『NAU news27』1950年1月1日。
- 30) 同前。
- 31) 注12に同じ。
- 32) 「組合歴史の一頁を飾る 昭和二十七年の足跡」『熱風』第190号、1953年12月23日、第2面。
- 33) 同前。
- 34) 「労働組合の文化運動」『日本文化の現状と問題点』国民文化会議、1964年5月、p. 107。
- 35) 「『働く者の文化』を語る座談会」『熱風』第249号、1955年1月3日、第2面。

## [ 表1 典拠一覧 ]

- ① 『八幡製鉄労働組合運動史上巻』八幡製鉄労働組合、1957年
- ② 『八幡製鉄労働組合運動史中巻』八幡製鉄労働組合、1959年
- ③ 「設計計画委員会」『NAU news13』
- ④ 『建築雑誌』第67巻第791号
- ⑤ 「NAU 設計委員会が生まれました」『NAU news24』
- ⑥ 「八幡労働会館設計 NAU 案に決まる」『NAU news25』
- ⑦ 本多昭一「建築運動史18」『建築とまちづくり』第279号2000年7月号
- ⑧ 「八幡製鉄労働組合会館」『NAU news27』
- ⑨ 「竣工予定割る十ヶ月目に完成か？」『熱風』1952年1月1日
- ⑩ 「労働会館が完成するまで」『熱風』1952年2月27日  
(提出期日 平成15年12月10日)